

講義科目名称： 環境と健康（公衆衛生学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
相羽 洋子			
水2			
添付ファイル			

科目の概要	環境と健康は密接な繋がりがあある。大気汚染など社会的に話題となっている問題は身近な環境問題であり、私達の健康の在り方に直結しているものである。さらに、公衆衛生学は、人、地域社会および国民全体の「健康」を最終目標とする学問である。この授業では、環境と健康の関係について知識を深めるとともに、公衆衛生学の概念とその重要性について講義する。
授業の内容	<p>第1回 前半：オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等）、後半：人と環境のかかわりシラバスを事前に読んでおくこと。 教科書2-8頁を読み、人と環境のかかわりについて理解すること。</p> <p>第2回 環境問題の歴史 教科書9-15頁を読み、世界と日本における環境問題の変遷を理解すること。</p> <p>第3回 地球環境問題 教科書16-37頁を読み、地球上で起きている環境問題を理解すること。</p> <p>第4回 環境保全 教科書38-45頁を読み、環境対策に関する国の動向を理解すること。</p> <p>第5回 生活環境と衛生 教科書46-59頁を読み、気候・季節等の生活環境と衛生を理解すること。</p> <p>第6回 空気と汚染 教科書60-69頁を読み、大気汚染と環境基準を理解すること。</p> <p>第7回 水と水質汚濁 教科書70-85頁を読み、上水、下水、水質汚濁を理解すること。</p> <p>第8回 まとめ、中間試験 第1回から第7回まで学習した内容を復習し、中間試験を行う。</p> <p>第9回 土と土壌汚染、地盤沈下 教科書86-96頁を読み、土壌汚染における健康影響、地盤沈下の現状を理解すること。</p> <p>第10回 音と騒音、振動 教科書97-105頁を読み、騒音と振動による健康影響や環境基準を理解すること。</p> <p>第11回 においと悪臭 教科書106-109頁を読み、悪臭の現状と規制基準を理解すること。</p> <p>第12回 廃棄物 教科書110-115頁を読み、廃棄物の分類と処理、現状を理解すること。</p> <p>第13回 放射線、最近の化学物質による環境問題 教科書116-152頁を読み、非電離放射線・電離放射線による健康影響、化学物質による健康影響を理解すること。</p> <p>第14回 公衆衛生の意義、感染症と生活習慣病 調理師の仕事の中での公衆衛生の意義を理解すること。</p> <p>第15回 まとめ 定期試験 第9回から第14回まで学習した内容を復習をする。</p>
学習到達目標	環境と健康の関係および公衆衛生学の概念について学び、環境問題と調理師の仕事との関わりを説明できるようになることを目的とする。
授業の方法	講義形式
成績評価の方法	主として中間試験（40%）と定期試験（50%）の合計を基準とするが、授業参加態度（10%）も考慮に入れて評価する。
教科書・テキスト	健康と環境の科学 川添禎浩編 講談社
参考書	必要に応じてプリントを配布する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	新聞・ニュースなどを通じて、環境問題や健康に関する社会的な話題に関心をもつこと。
履修上の留意事項	居眠り、携帯電話・スマートフォンの操作、他の科目の勉強、等は厳禁とする。
オフィスアワー	水曜日 3時限、4時限

担当教員への連絡方法	学内メールアドレス (y-aiba@osaka-aoyama.ac.jp) を利用する。
その他	